



|              |                                                                             |
|--------------|-----------------------------------------------------------------------------|
| Title        | 書を抱えてフィールドに出よう！                                                             |
| Author(s)    | 柳澤，沙也子；戸田，登美子                                                               |
| Citation     | 目で見るWHO. 2023, 85, p. 32                                                    |
| Version Type | VoR                                                                         |
| URL          | <a href="https://doi.org/10.18910/92797">https://doi.org/10.18910/92797</a> |
| rights       |                                                                             |
| Note         |                                                                             |

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

# 書を抱えてフィールドに出よう！



ジェシカ・ファンゾ氏「Can Fixing Dinner Fix the Planet?」の日本語版。管理栄養士である手島氏と、医師であり100か国以上で保健医療活動に従事した國井氏の翻訳は、奥深い内容でありつつも、何気ない日々の食事の選択が、私たちの健康だけではなく、フードシステムを通して、どのように地球と未来に繋

## 食卓から地球を変える あなたと未来をつなぐフードシステム

著者：ジェシカ・ファンゾ 國井修・手島祐子訳  
出版社：日本評論社 2022年 3月発行

がっているのかを、様々な分野から教えてくれる本です。

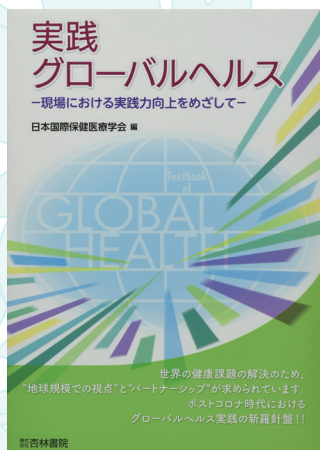
地球温暖化が叫ばれて久しいですが、温室効果ガス排出量全体の1/3は食事に関する事柄（フードシステム）で占められていることを本書から知り、衝撃を受けました。食べ物と地球と健康に関するイート・ランセット委員会は、地球の資源を枯渇することなく、今後増加する人口を健康的に養うための食事基準「プラネタリーヘルスダイエット」を提案しました。この食事基準は、魚や野菜、ナッツ等の健康的な食品の摂取を増やし、卵や乳製品は適度に摂取、赤身肉や砂糖といった不健康な食品の摂取を減らすこ

とを推奨しています。

近年、当協会はプラネタリーヘルスに着目しています。気候変動や資源の枯渇等、大きすぎる問題だと感じる人もいるかもしれませんが、人間が健康でなければ地球は健康にならないし、地球が健康でなければ人間は健康になりません。

昨今、卵や輸入食品の価格は高騰する一方、外食チェーン店やスーパーでも大豆ミートは選択肢のひとつになりつつあり、私達の日々の食事から世界を変えることができます。本書を手に取り、人間の健康と地球の健康の調和、共存に向けて共に進んでいきましょう！

（紹介者：柳澤沙也子）



日本国際保健医療学会は1986年に設立され、本書の前身である「国際保健医療学」は2001年に同学会より刊行されました。国際保健医療学は其中で「全世界的な立場でみた場合に、健康水準、保健医療にみられる国、地域的な違いや格差が、どの程度以上であれば容認しがたいと考えるか、そのような違いや格差が生じたことにはどのような要因が関連しているか、さらに容認できる程度まで

## 実践グローバルヘルス —現場における実践力向上をめざして—

編者：日本国際保健医療学会  
出版社：杏林書院 2022年4月発行

改善するにはどのような方策があるかを研究し、解明する学問」と定義づけられています。

それから20余年を経て、タイトル、装いも新たに、またスリムになって刊行されました。本書の何よりの特徴は、「グローバルヘルスの担い手の育成に寄与すること (p.1)」という目的に即して、各章にグローバルヘルスを実践する者のコンピテンシーが記されていることです。中では、Marmotの次の言葉が引用されています。「知識を得たのなら、それをもとにした社会アクションもまた私たちには必要である (p.64)」。まるで

COVID-19のパンデミックによってフィールドワークもままならなかった私たちに、新たに出発するよう背中を押してくれるようです。

健康課題や疾病、国ごとの情報は、現代の情報速度を鑑みて、日本国際保健医療学会のホームページ等を介して今後公開、随時更新されるとのことで、こちらも楽しみです。

さあ、皆さんもどうぞ本書を手を今こそフィールドに出してみませんか？

（紹介者：戸田登美子）